

# Palm leaf

パーム リーフ

知っておきたいキリスト教のことば (99)

しゅろの葉 しゅろのは

イエス様がエルサレムに入城するとき、群衆が「ホサナ、ホサナ」と叫びながらついていく場面が描かれます。新共同訳聖書によると、群衆は「なつめやしの葉」を持っていたと書かれています。

なつめやしと棕櫚(しゅろ)とはまったく違う植物なのですが、聖書が日本に伝わった当時、日本ではなつめやしは一般的ではなかったそうです。そのため、人々がよく知っている「棕櫚」と訳されたと言われています。

したがって現在使われている聖書では「なつめやし」と訳されているものの、イエス様のエルサレム入城と聞くと、今でも「棕櫚」を思い浮かべる方は多いと思います。

それは、「棕櫚の日曜日」(パーム サンデー)と呼ばれる復活日の前の日曜日に、「棕櫚の十字架」をいただくという習慣があるからではないでしょうか。

そもそも「パーム」の訳は「ヤシ」ですので、「ヤシの日曜日」に変えた方がよいのかもしれませんが、「棕櫚の葉」であれば、結構いろいろなところで目にすることができます。教会によっては、その葉を折って十字架をつくり、一年間身近に持っておくという習慣があるところもあります。

群衆はその葉を振りかざしながら、イエス様を迎えました。その行為は、ユダヤ教の巡礼の習慣に従ったものです。またローマでは、棕櫚の葉は勝利の象徴であったそうです。

つまりイエス様のエルサレム入城に対し、棕櫚の葉を振って迎えたということは、殉教と死という出来事に対する勝利者を迎え入れたことでもあるのです。わたしたちも棕櫚の葉を振りながら、イエス様を迎え入れたいものです。

次回は「頌栄」です。お楽しみに。



「キリストのエルサレム入城」  
ジョット・ディ・ボンドーネ  
(1267~1337年)

それゆえ主は、イスラエルから頭も尾も しゅろの枝も葦の茎も一日のうちに断たれた。

(イザヤ書9章13節)

